

練馬区の現状

1 練馬区の面積

- (1) 東京23区面積
- (2) 東京23区用途地域構成

2 練馬区の人口の動向

- (1) 練馬区の人口の推計
- (2) 練馬区の人口ピラミッド
- (3) 練馬区の年齢区分別人口比率
- (4) 練馬区の世帯数の比率

3 練馬区民の生活環境

- (1) 地価公示の状況
- (2) 1住宅あたり延べ面積
- (3) 納税者1人あたり所得

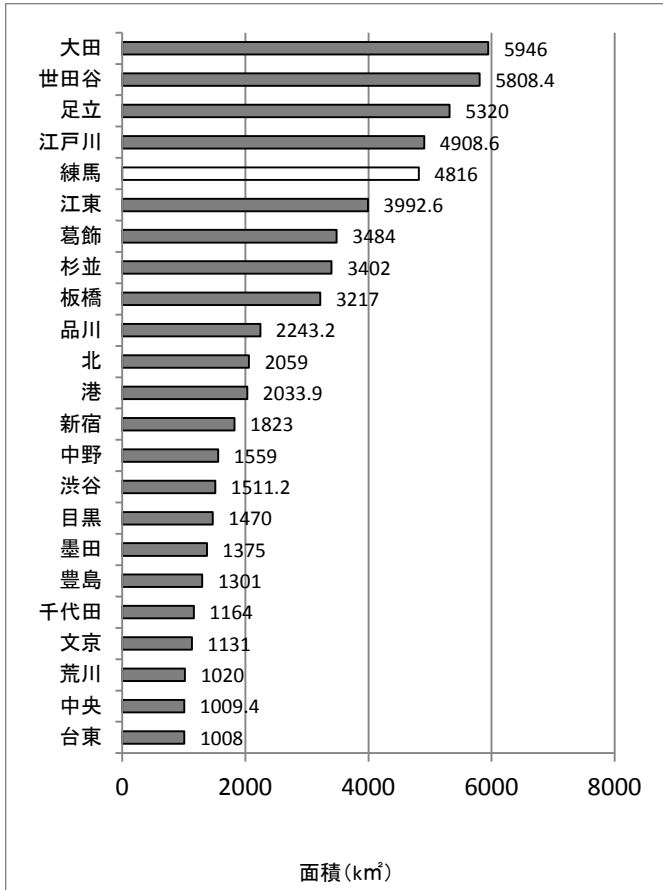
4 練馬区のみどりと農

- (1) 農地面積の推移
- (2) 農家数の推移
- (3) 品目別農業生産
- (4) 緑被率

1 練馬区の面積

(1) 東京23区面積

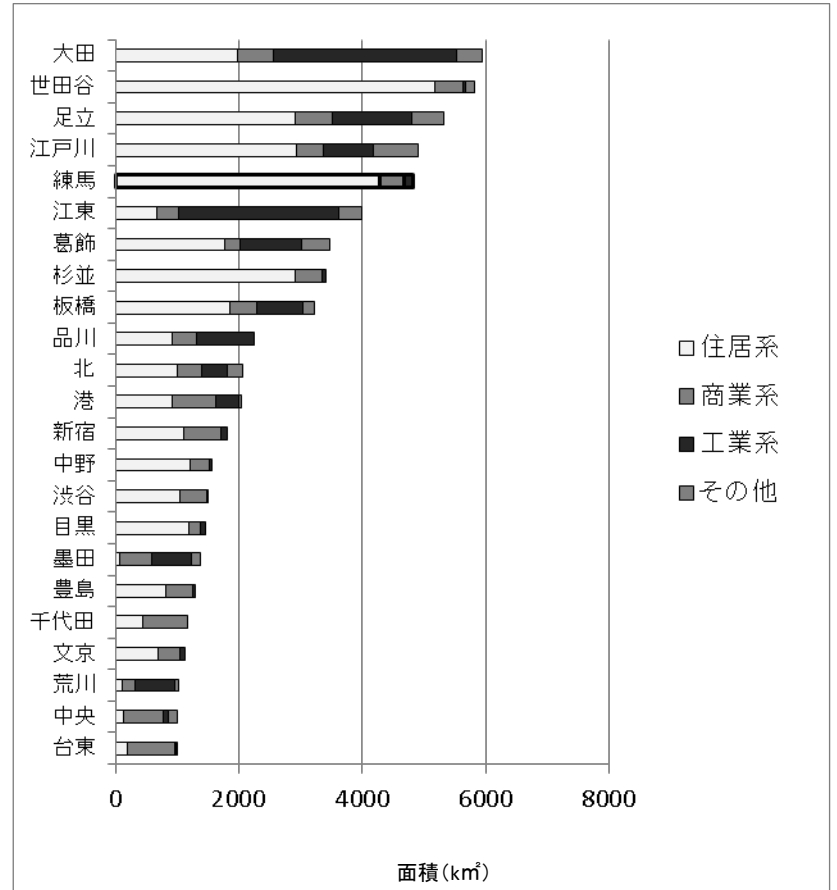
練馬区は面積は約48 km²大田区、世田谷区、足立区、江戸川区に続く第5位の広さを持つ。



資料:国土交通省国土地理院『全国都道府県市区町村別面積調』

(2) 東京23区用途地域構成

練馬区は面積のほぼ90%を住宅系が占めている。大面積を持つ住宅地域として世田谷区・杉並区と並ぶ存在である。

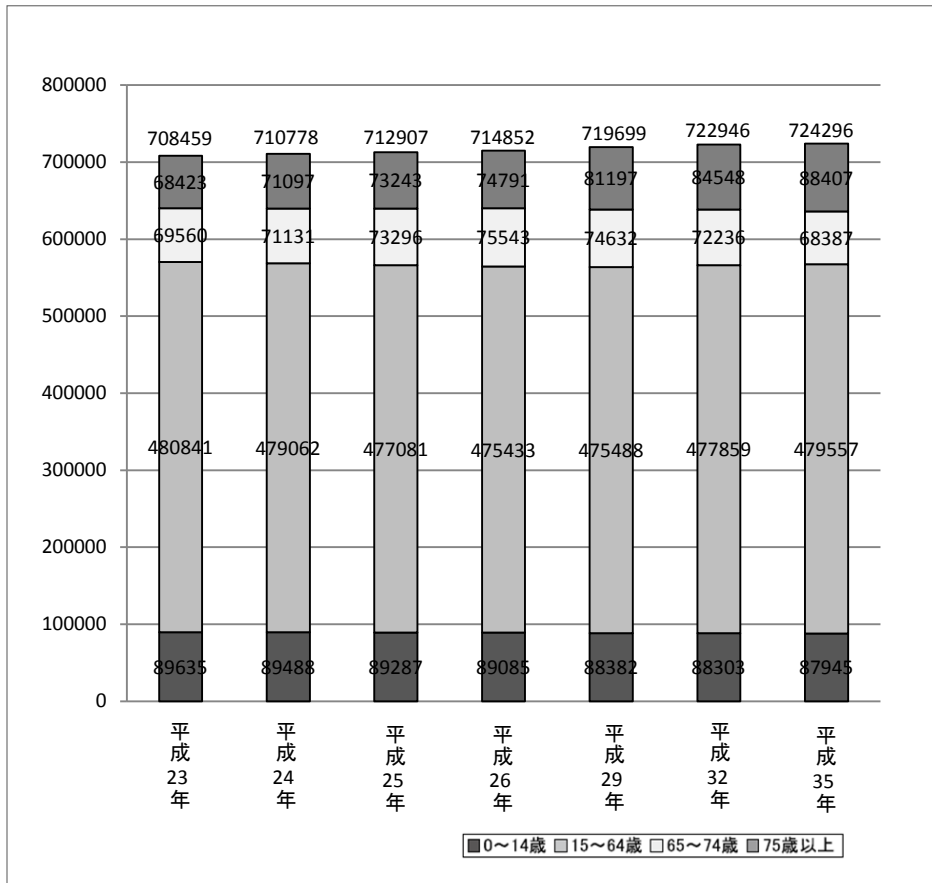


資料:各区資料による。

2 練馬区の人口の動向

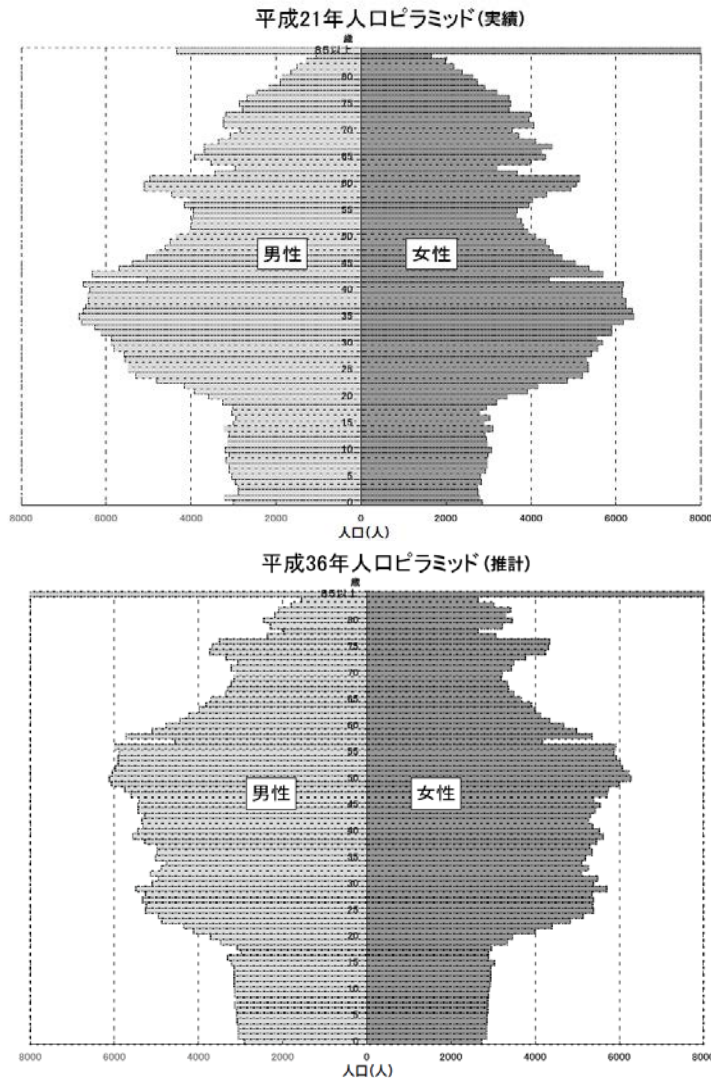
(1) 練馬区の人口の推計

平成35年までの人口推計によると、推計期間を通じて人口は増加し続けるが増加率は徐々に低下していき、平成36年には約72万4千人と見込まれる。



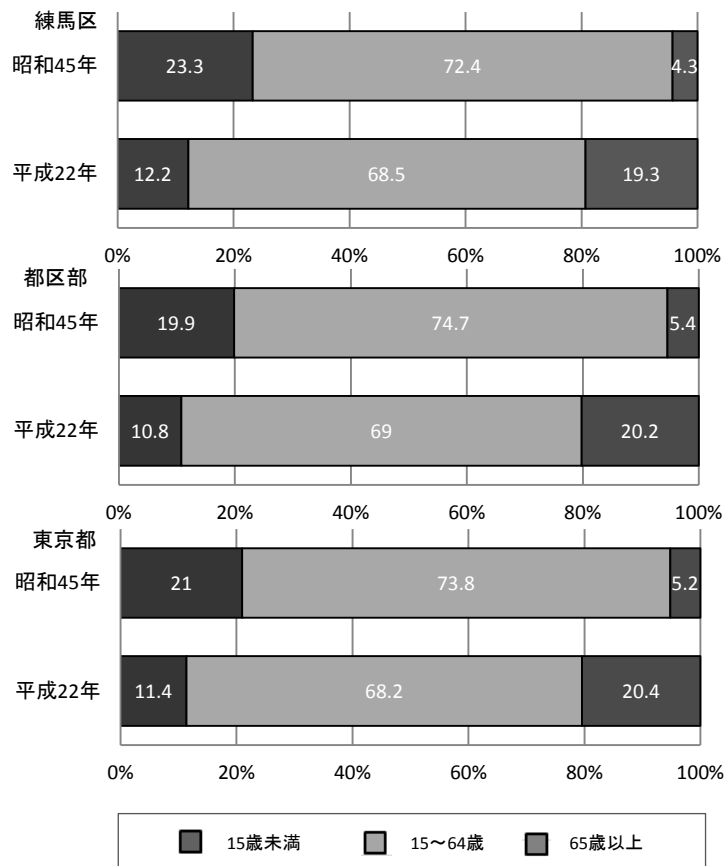
注) ※平成23年は9月1日現在(外国人登録者数を含む)の実数値、平成24年以降は当該年の9月1日の推計値 (資料:住民基本台帳および外国人登録者数)

(2) 練馬区人口ピラミッド



(3) 練馬区の年齢区分別人口比率

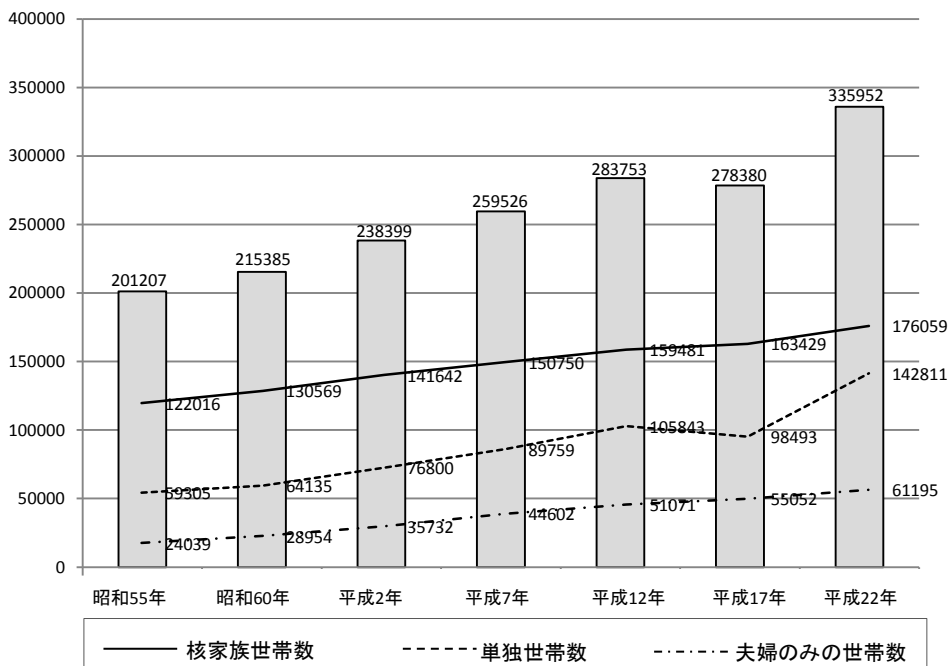
国勢調査によると、年齢区分別比率は、昭和45(1970)年から平成22(2010)年まで急速に少子高齢化が進展し、平成22(2010)年には高齢人口比率は19.3%に達する一方、年少人口比率は12.2%まで低下している。



総務省「国勢調査」から作成

(4) 練馬区の家帯数の比率

国勢調査によると、練馬区の家帯数は一貫して増加傾向にあったが、平成17(2005)年には減少に転じた。

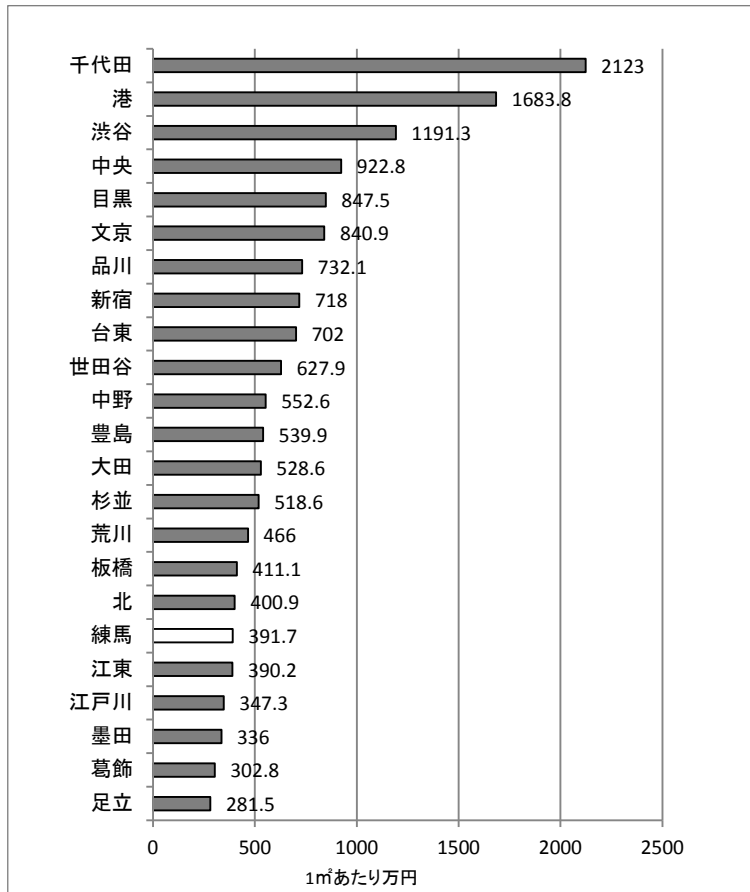


総務省「国勢調査」から作成

3 練馬区民の生活環境

(1) 地価公示の状況（平成20年住宅地平均地価）

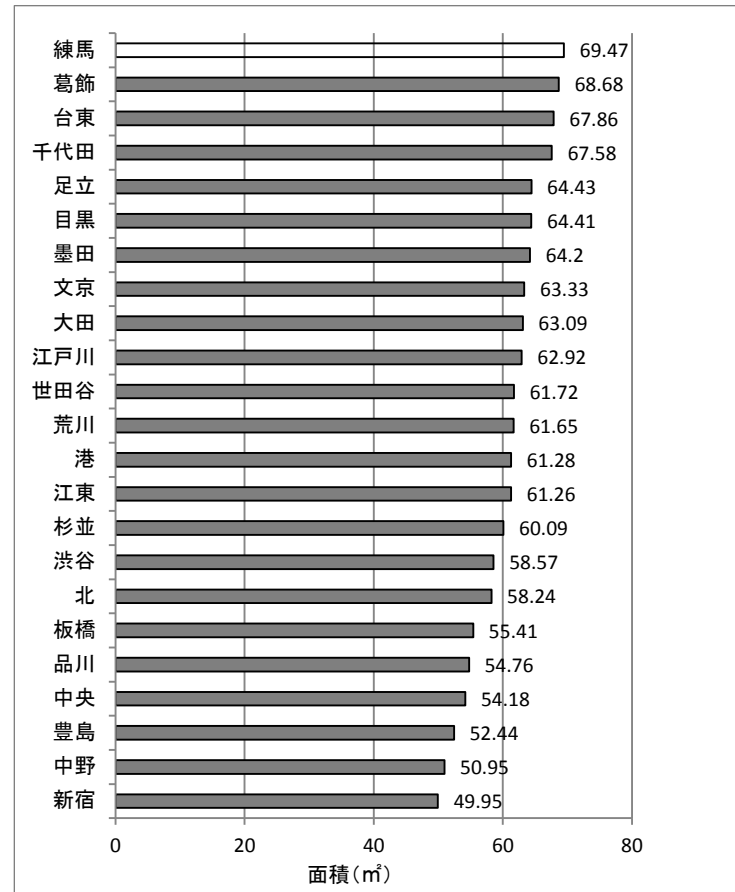
都心部千代田、港、渋谷が上位を占め、都心部住宅地である目黒文京も上位に位置する。
練馬は江東区、北区、江戸川区など東部エリアと同水準にある。



資料：国土交通省地価公示資料による

(2) 1住宅あたり延べ面積（平成20年）

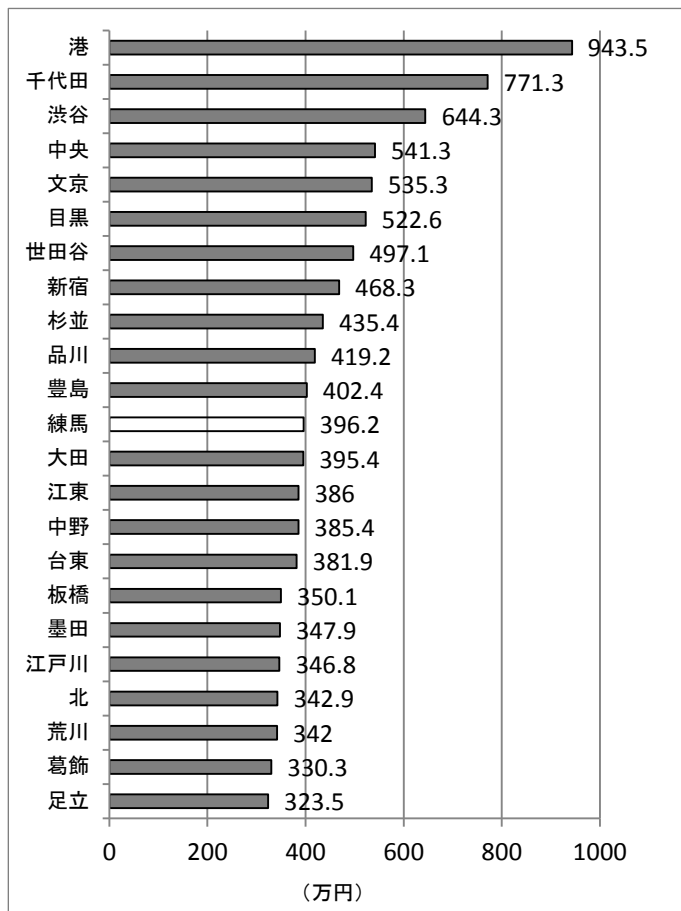
練馬区の1住宅あたり延べ面積は69.5㎡で23区中トップ



資料：総務省統計局『平成20年 住宅・土地統計調査報告』

(3) 納税者1人あたり所得

練馬区の納税者1人あたり所得は約400万円で23区中ほぼ中位にある。

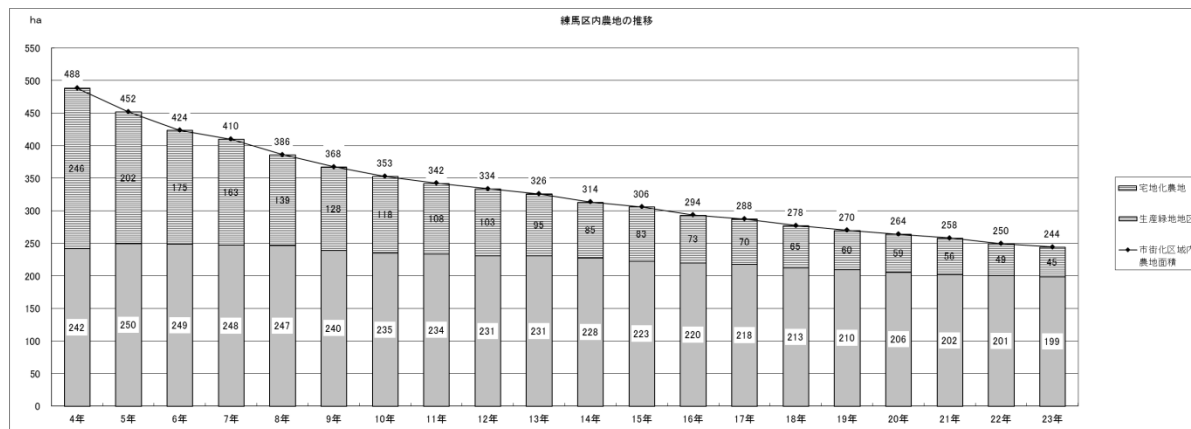


総務省「市町村別課税状況等の調」2010

4 練馬区のみどりと農

(1) 農地面積の推移

農地面積は緩やかな減少傾向にある。



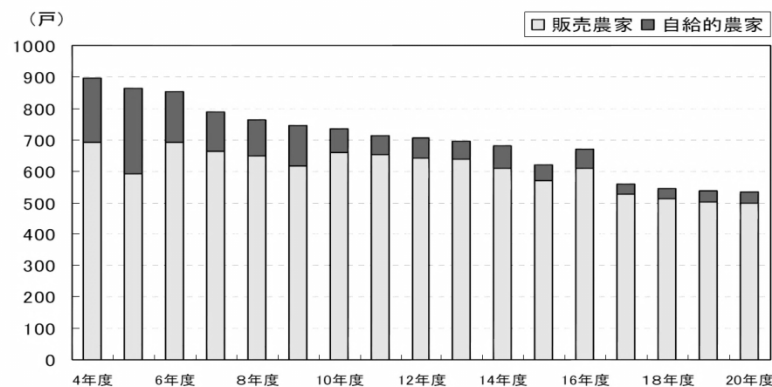
出店: 練馬区調査

注) ○生産緑地地区面積: 各年の都市計画の公示に基づく数値
○宅地化農地面積: 市街化区域内農地面積－生産緑地地区面積

(2) 農家数の推移

平成4年度(896戸)～20年度(535戸)にかけて、練馬区の農家は361戸減少している。
また、平成20年度の専兼別農家数は専業農家が2%、第一種兼業農家2%、第二種兼業農家96%であり、農業収入の占める割合が全収入の5割未満の第二種兼業農家がほとんどを占める。

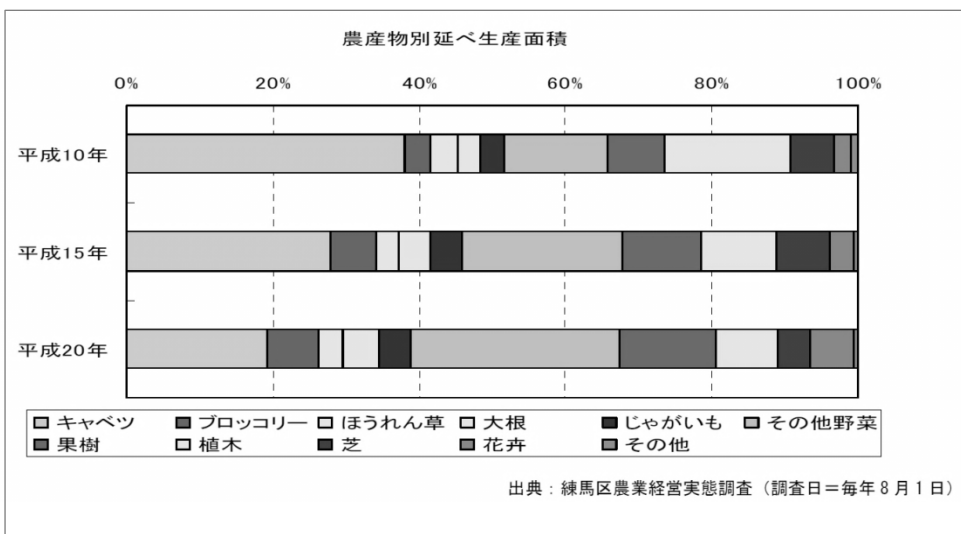
農業経営の実態



出典: 練馬区農業経営実態調査 (調査日=毎年8月1日)

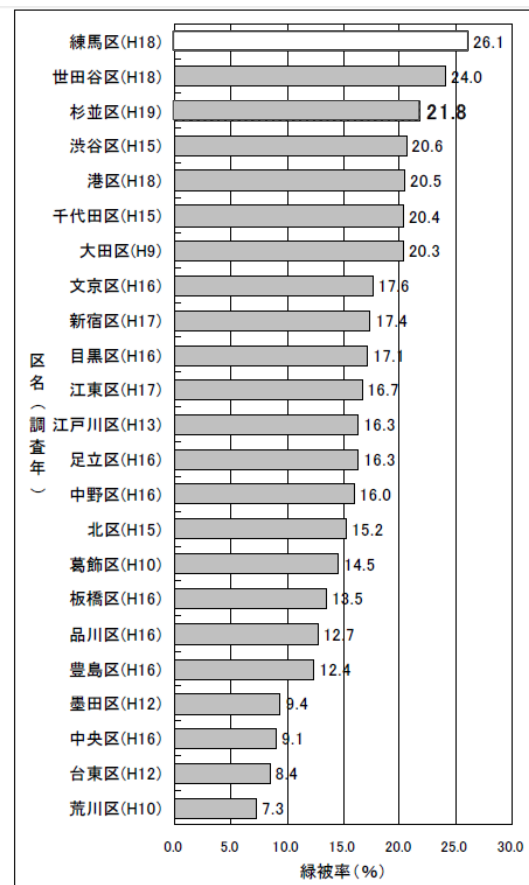
(3) 品目別農業生産

平成10年度から20年度への練馬区の農業生産面積は、キャベツ、植木、果樹、芝、ブロッコリー、大根、じゃがいも等が主品目である。近年はキャベツの生産面積割合が減り、「その他の野菜」の生産が増える傾向にある。しかし、練馬区のキャベツ栽培は他区や都全体と比べるとまだ大きな割合を占めている。



(4) 東京23区緑被率

緑被率は23区中1位にある。
世田谷区、杉並区と並び西部住宅地が上位を占めている。
都心部並びに東部住宅地も緑被率では低い水準にある。
※ 練馬区の緑被率は平成23年度現在25.4%



杉並区：「平成19年度緑の実態調査」より転載
・調査方法が各区により異なる。